「御子イエスについての証し」　　2025 年 12 月 22 日

この方は、水と血を通って来られた方、イエス・キリストです。水だけでなく、水と血とによって来られたのです。そして、霊はこのことを証しする方です。霊は真理だからです。証しするのは三者で、霊と水と血です。この三者の証しは一致しています。私たちが人の証しを受け入れるのであれば、神の証しはなおのことです。神が御子についてなさった証し、これが神の証しだからです。 神の子を信じる人は、自分の内にこの証しを持っています。神を信じない人は、神を偽り者にしています。神が御子についてされた証しを信じないからです。この証しとは、神が私たちに永遠の命を与えてくださったということです。そして、この命は御子の内にあります。御子を持つ人は命を持っており、神の子を持たない人は命を持っていません。（Ｉヨハネ５：6～12）

著者は、前節 4～5 節で、「神から生まれた人は皆、世に勝つからです。世に勝つ勝利、それは私たちの信仰です。世に勝つ者とは誰か。イエスが神の子であると信じる者ではありませんか」と、主イエスをキリストと信じることが世に勝つ勝利の信仰であると語った。この勝利をもたらしてくださる方は、水と血を通って来られたイエス・キリストである。「水と血」という言葉は「水と血と霊」「水と霊」「血と霊」などと書かれることがあるが、後の時代の聖礼典における用語の反映であろう。そして、「水と血とによって来られたのです」という言葉は、主イエスが受洗した時に、キリストが天より降下し、イエスの十字架の死の前にキリストは地を離れ去ったと仮現的に捉えるグノーシス派の論敵に対する反論である。「水」とは主イエスが地上で洗礼を受けられたことで、「血」とは主イエスが十字架の上で死を遂げたことで、両方とも、歴史的事実であることに言及している。主イエスが肉を持って、神から遣わされた出来事は歴史的なことであったと強調している。

著者は、「水と血」によって来られた御子イエスを、神の霊が証しすると説く。主イエスの洗礼の水と主イエスが十字架で流された血、そして、神の真理の霊、「水と血と霊」の三者が一致して、御子イエスの救いを証しする。私たちが人間の証しを受け入れるのであれば、神の証しは更に勝っている。神が御子イエスについてなさった霊の証しは、確かである。人の証しを受け入れて、御子イエスを信じる人は、自分の内に神の証しを受け入れることになる。信じない人は、御子イエスについてなさった神の証しを信じない。それは、神を偽り者にしていることになる。著者は、「水と血と霊」による三者の証しとは、「神が私たちに永遠の命を与えてくださったということです。そして、永遠の命は御子の内にあります」と説く。御子イエスには神の永遠の命が内包されており、この方を信じ、結ばれている人には永遠の命が与えられ、御子と結ばれていない人には命はない。

「ヨハネ教団」の信仰は明確である。ヨハネ福音書 14 章 10～11 節で、主イエスは、「私が父の内におり、父が私の内におられることを、信じないのか。私があなたがたに言う言葉は、勝手に話しているのではない。父が私の内におり、その業を行っておられるのである。私が父の内におり、父が私の内におられると、私が言うのを信じなさい」と語っておられる。主イエスは神の内におられ、神は主イエスの内におられる。主イエスの言葉と業は神の御心そのものを現わしている。神を現わす主イエスは永遠の命を持っておられ、この方を信じ、結ばれた者は命を持つ。世に勝つ勝利、即ち、自分の生を喜びと感謝をもって、全うすることができる。この福音を伝えているのである。